三井物産環境基金のご紹介

2007年12月8日

三井物産(株) CSR推進部

三井物産環境基金 事務局

MITSUI & CO.,LTD.

三井物産株式會社

日本で生まれ、世界で育った三井物産

MITSUI & CO.,LTD.

プロフィール

- 設立： 1947年7月
- 関係会社数（連結）：560社
  - 子会社371社
  - 関連会社189社
- 事業所数：
  - 70カ国、161拠点（海外145）
- 従業員数（連結）：
  - 41,761人
- 2007年3月期決算
  - 当期純利益： 3,015億円
  - 総資産： 9兆8,133億円

2007年3月末現在

グローバルネットワーク

三井物産の歩み

MITSUI & CO.,LTD.

1876 ～三井物産誕生と世界市場への進出～

- 明治9年、「旧三井物産」誕生
- ｺﾐｯｼｮﾝ・ｴｰｼﾞｪﾝｼｰからｵﾙｶﾞﾅｲｻﾞｰへ
- 敗戦からの復活、そして解散

- 復興の第一歩に貢献
- 商社機能復活のために
- 新生・三井物産の誕生

1960 ～高度成長経済と国際的事業展開～

- 高度経済成長の牽引力として
- 「斜陽論」を事実をもってハネ返す
- 時代ニーズの産業的解決者

- 工業資源の安定調達を目指して
- 国家レベルの危機感を持って臨む
- 時代の先端分野への挑戦

1990 ～グローバルな総合力を発揮する時代～

- 求められる経営手腕
- 「仕組みの創造」と「専門機能の融合」
- 複雑化・高度化に応えるソリューション

- 「最強の総合力商社」を目指して
- 新たな飛躍に向け価値観を共有

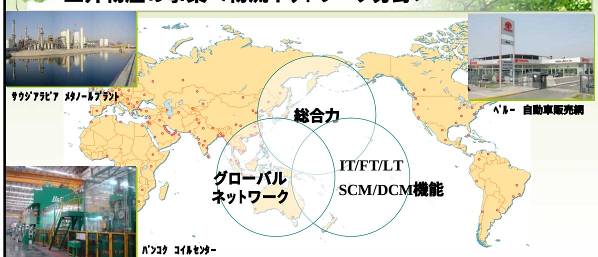
三井物産の事業＜資源・エネルギー分野＞

MITSUI & CO.,LTD.

- サハリンIIをはじめとする大型プロジェクトの完遂
- 豪州のLNG、鉄鉱石、石炭など既存案件の拡張
- 新規優良案件も選択的に追求
- バイオマスエタノール・新エネルギーへの取組み

三井物産の事業＜物流ネットワーク分野＞

MITSUI & CO.,LTD.



- ネットワーク・SCM機能などの高度化・複合化と規模の拡大
- アジアを中心とした広域3極で自動車・IT・エネルギー産業に重点取組み

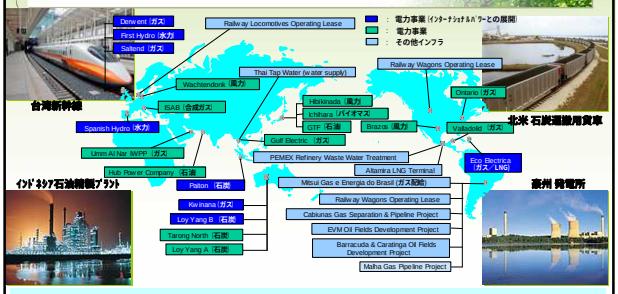
- 鉄鋼製品　米国での自動車・家電向けSCMモデルのアジア・欧州での展開など
- 化学品　　メタノール他の中東供給源の確保、豪州塩田買収、物流インフラ拡充など
- 自動車　　販売金融業やディーラー業、自動車部品分野の地域的横展開など

三井物産の事業＜コンシューマー分野＞

MITSUI & CO.,LTD.

- 消費者起点のサービス事業の展開－日本経済の回復により商機増大
- 通信と放送の融合による新しいビジネスの創出
- 少子高齢化社会・健康志向に対応
- 7&i、TBS、ダスキン、リクルートなど重要パートナーとの提携強化

三井物産の事業＜インフラ分野＞



- 社会基盤となるインフラ整備を通じた、地域の経済発展および生活水準改善・向上への貢献
- 電力、水等の重点分野で優良資産に選択投資
  ー総合電力事業体として実業に軸足を置いたIPP事業展開、鉄道車両リース事業で資産積上げ
- 石油・ガスなど資源・エネルギー案件のValue Chain構築において総合力発揮

バリューチェーンを創出・最適化する総合力

総合的なソリューションの提供

マーケティング
ファイナンス
ロジスティクス
リスクマネジメント

＋

国内外の有力な顧客との リレーションシップ

国際有力企業との 戦略的なアライアンスを構築

Shell / bp / TOTAL / ExxonMobil / bhpbilliton / RIO TINTO / ANGLO AMERICAN / Companhia Vale do Rio Doce / PENSKE Corporation / International Power / SIEMENS / GE / 宝山鋼铁股份有限公司 BAOSHAN IRON & STEEL CO., LTD.

三井物産のコミットメント

- 三井物産の志すもの
- 三井物産の経営理念 (Mission, Vision, Values)
- CSR基本方針
- 環境方針
- 社会貢献活動方針
- 役職員行動規範

2004/10~国連グローバル・コンパクト支持宣言

三井物産の経営理念 (MVV)

■ 三井物産の企業使命 (Mission)

・大切な地球と、そこに住む人びとの夢溢れる未来作りに貢献します。

■ 三井物産の目指す姿 (Vision)

・世界中のお客様のあらゆるニーズに応える「グローバル総合力企業」を目指します。

■ 三井物産の価値観・行動指針 (Values)

・「Fairであること」、「謙虚であること」を常として、社会の信頼に誠実に、真摯に応えます。
・志を高く、目線を正しく、世の中の役に立つ仕事を追求します。
・常に新しい分野に挑戦し、時代のさきがけとなる事業をダイナミックに創造します。
・「自由闊達」の風土を活かし、会社と個人の能力を最大限に発揮します。
・創造力とバランス感覚溢れる人材を育成する為、自己研鑽と自己実現の場を従業員に提供します。

三井物産の CSR基本方針

1. 経済における役割を果たすとともに、三井物産の社会的な存在意義を十分に考え、環境との関わりを強く意識し、誠実な活動を展開することで、会社としての価値を持続的に向上させます。

2. CSRに関する社員一人ひとりの意識を高め、さらにコーポレートガバナンスを強化して内部統制を徹底することで、CSR実践のための経営基盤を固めます。そして、社会に対して積極的に貢献します。

3. ステークホルダーとの双方向の対話を重視します。CSRにかかわる説明責任を果たし、そのフィードバックに基づいて継続的にCSR活動の向上を図ります。

グローバルコンパクト10原則 ※2004/10当社は支持宣言

1999年1月、スイスのダボスで開かれた世界経済フォーラムの席上、アナン国連事務総長が「民間企業のもつ創造力を結集し、弱い立場にある人びとの願いや未来世代の必要に応えていこう」と提唱した企業の自主行動原則。

■人権
原則1. 企業はその影響の及ぶ範囲内で国際的に宣言されている人権の擁護を支持し、尊重する。
原則2. 人権侵害に加担しない。

■労働
原則3. 組合結成の自由と団体交渉の権利を実効あるものにする。
原則4. あらゆる形態の強制労働を排除する。
原則5. 児童労働を実効的に廃止する。
原則6. 雇用と職業に関する差別を撤廃する。

■環境
原則7. 環境問題の予防的なアプローチを支持する。
原則8. 環境に関して一層の責任を担うためのイニシアチブをとる。
原則9. 環境にやさしい技術の開発と普及を促進する。

■腐敗防止
原則10. 強要と賄賂を含むあらゆる形態の腐敗を防止するために取り組む。

THE GLOBAL COMPACT

DPF問題 (1)

DPFとは？

「粒子状物質減少装置」Diesel Particulate Filterの略称

ディーゼルエンジンからの排気ガスに含まれる炭化水素 (HC)、一酸化炭素 (CO) および粒子状物質 (Particulate Matter、以下PM) を減少・除去する排ガス浄化装置で、この装置をエンジンのマフラー部分に取り付けることで、PMを低減し、排出ガス中の一酸化炭素、炭化水素も低減することができる。

DPF問題 (2)

- 2004年11月、弊社が販売していたディーゼル車向けの粒子状物質減少装置 (DPF) の首都圏八都県市への指定申請時に虚偽のデータが作成・提出され、粒子状物質の捕集率が基準値に達していない製品を販売したことが判明。
- 本商品は、東京都はじめ地方自治体、国土交通省、環境省、関連団体ほかの補助金対象商品で、累計で約21,500台を販売済み。
- 問題判明後、ピーク時で480名以上の組織で対応、補償費用として450億円の引当設定。
- 補助金交付団体へは、2005年12月補助金一括弁償完了。
- お客様への対応は、代替品との無償交換、購入代金相当額のお支払い、新車・中古車への買い換えの支援などを柱とし、2006年10月対象となるDPFの回収完了。

三井物産環境基金の設立

■ 2005年7月、地球環境問題の解決に向けた様々な活動を支援し、経済と環境が調和する持続可能な発展の実現を目的として「三井物産環境基金」を設立。

■ 三井物産社員のボランティア活動奨励や公開セミナーも実施。

三井物産環境基金の目的

1 当社の経営理念、CSR基本方針・環境方針・社会貢献活動方針に沿った活動の拡充の一環として、環境問題対応の貢献活動をより積極化すること。

2 社会的責任と環境の重要性に対する深い認識を当社役職員一人ひとりが真摯に心にとどめおき、その意識を維持・高揚して行くこと。

助成プログラム

1 *活動助成：*

実践的な活動に対する助成

2 *研究助成：*

研究に対する助成 (2007年度より開始)

助成対象分野 ＜活動助成＞

地球環境問題の解決に向けた社内外の様々な活動を支援

■ 助成対象分野：

➢ 日本国内および海外における下記分野の実践的な活動
(営利目的の環境ﾋﾞｼﾞﾈｽは対象外)

① 地球気候変動問題
② 水産資源の保護・食料確保
③ 表土の保全・森林の保全
④ エネルギー問題
⑤ 水資源の保全
⑥ 生物多様性及び生態系の保全
⑦ 持続可能な社会構築のための調査とネットワーキング
(様々な主体との協働)

助成対象団体・期間 ＜活動助成＞

■ 助成対象団体：
- ➢ NPO法人、公益法人（社団法人・財団法人）、中間法人、大学
- ➢ 活動実績が3年以上の団体

■ 助成対象期間：
- ➢ 最長3年
  但し、複数年にまたがる案件は1年毎に継続審査を行います。

助成金額 ＜活動助成＞

■ 1回の選定の総額： 最大3億円
（別途募集する三井物産社員・退職者の案件を含む）

■ 1件当りの上限は設定せず

■申請案件に関わる「人件費」も計上可
（但し、公益法人・大学の場合は計上不可）

■自己資金比率20%以上（公益法人・大学は除く）

■過去3回の助成実績

助成金額（最長3年間計）	5百万円/件 未満	5百万円/件 以上 10百万円/件 未満	10百万円/件 以上 20百万円/件 未満	20百万円/件 以上
助成件数	20件	24件	10件	6件

募集・選定スケジュール ＜活動助成＞

各年度2回の募集・選定を実施

■募集期間：
- ➢第1回： 3月初～4月末
- ➢第2回： 9月初～10月末

■選定結果発表／助成開始：
- ➢第1回： [発表] 8月頃、[助成開始] 10月～
- ➢第2回： [発表] 3月頃、[助成開始] 4月～

■選定方法：
- ➢社外有識者を含む案件選定委員による審査、ならびに当社役職員により構成される評議委員会による総合的な判断に基づき決定。

選定基準 ＜活動助成＞

① 地球環境問題の解決および社会への貢献度（活動テーマ設定の妥当性）

② 活動の持続性・発展性

③ 活動地域および参加者の広がり

④ 活動の実効性

⑤ 予算設計の妥当性

⑥ 組織の案件推進能力

「申請書」作成上のポイント

■申請する案件と団体のビジョンや事業計画との整合性
- ➢団体の本来のビジョン、目的、事業計画から外れたプロジェクトを無理に申請していないか

■プロジェクトの実効性・実現性
- ➢課題や問題を具体的にどう解決するのか、変えるのか
- ➢団体の実績、体制などの観点で実現可能か、無理はないか
- ➢具体的な実施計画や予算が十分に検討されているか

■分りやすく、ポイントを整理
- ➢素人にも分るように・・審査には三井物産の一般社員も参加

■「申請内容」「実施スケジュール」「予算」の整合性

■助成終了後のビジョン
- ➢活動をどのように継続・発展させるか

助成実績

■ 2005年度 応募：59件、助成：15件 117百万円

■ 2006年度 応募：87件、助成：18件 217百万円

■ 2007年度（第1回） 応募：121件、助成：27件 267百万円

■ 2007年度（第2回） 現在選定中

助成案件の例（1）

MITSUI & CO.,LTD.

一般・東海地区

- NPO法人表浜ネットワーク（愛知）：表浜海岸のアカウミガメと自然環境の保全
- NPO法人ソムニード（岐阜）：ネパール・マカワンプール地域における地域住民参加型森林保全事業

助成案件の例（2）

MITSUI & CO.,LTD.

三井物産社員による案件

- 四国支店：高知県との協働の森づくり事業
- 北陸支店：金沢大学による能登半島・里山里海自然学校への参加

助成案件の例（3）

MITSUI & CO.,LTD.

海外案件

- トルコNGO TEMA：トルコ・カラピナール砂漠化防止プログラム
- 米国NGO National Audubon Society：ミシシッピ河～源流から湾へのキャンペーン
- 国内団体による海外活動も2007年度より募集・選定

三井物産社員によるボランティア活動

MITSUI & CO.,LTD.

- 富士山麓清掃（2007年7月・11月）
  - NPO法人富士山クラブと協働
- 谷津田再生プロジェクト（2007年5月～）
  - 茨城県の休耕田再生
  - NPO法人アサザ基金と協働
  - 毎日新聞主催「グリーンツーリズム大賞2007」奨励賞受賞

セミナー開催

MITSUI & CO.,LTD.

- 第2回三井物産環境基金セミナー（2007年5月）

テーマ：「地球環境問題の最新状況と対応策」
講　師：米国アースポリシー研究所 レスター・ブラウン氏
国連大学 副学長 安井 至 氏

三井物産の社有林 ～"緑のダム"を守り続ける使命～

MITSUI & CO.,LTD.

～社有林　（4万4,000ha、東京23区の約70%）～

民間企業保有面積 ⇒ 全国第3位

1位　王子製紙 18.3万ha
2位　日本製紙　8.2万ha
3位　三井物産　4.47ha　（全国73カ所）
4位　住友林業　4.0万ha

⇒「緑の循環」認証会議（SGEC）の森林認証を取得

～担うべき責任を感じてもらうために～

公益的機能評価額 ⇒ 約1,315億円

- ◆水源涵養機能：水を蓄え、水質を浄化
- ◆大気保全機能：CO2吸収量＝年間約18万Co2トン
- ◆土砂流出・崩壊防止機能：地表侵食、災害防止
- ◆保健休養機能：人々のやすらぎの場
- ◆野生鳥獣保護機能：動物の生息の場

⇒公益的価値の維持、さらなる価値創造へ

三井物産の本業を通じたCSRへの取り組み
MITSUI & CO.,LTD.
世界最大の鉄鉱石資源開発と
環境・社会との共生
● 資源の安定供給
● 地域社会との共生
● 環境配慮（採掘時の緑化）
● 在日ブラジル人
子弟教育支援
リオドセ社とのパートナーシップ
COLOMBIA
Manaus
Belém
Amazon
ARGENTINA
Porto Alegre
30
三井物産株式会社

三井物産の本業を通じたCSRへの取り組み
MITSUI & CO.,LTD.
エネルギー安定供給
コーヒー原料のSCM
バイオエタノールの開発
（カタール ガス洋上施設）
（ブラジル 認証取得コーヒー農園）
（エタノールの原料となるサトウキビ畑）
水素エネルギー社会を
見据え燃料電池の開発
低環境負荷の物流サービス
CDMプロジェクトへの取組
（燃料電池自動車）
（コンテナフィーダーバージ）
（インドネシア養豚場メタンガス回収）
31
三井物産株式会社

終
MITSUI & CO.,LTD.
ご清聴有り難うございました。
＜お問い合せ先＞
三井物産（株）CSR推進部
三井物産環境基金 事務局
Tel：03-3285-3316
E-mail：MBK-Kankyokikin@mitsui.com
Website：http://www.mitsui.co.jp/csr/fund/
32
三井物産株式会社